

へ、次の橋に新大橋の名あり、此川元來武藏下總の堺といふによりて、兩國橋と號しよし、今は本所葛西の邊のこらす武藏國葛飾郡のうちにて、既に利根川を限る也、

〔泰平年表殿有院〕万治二年、此年兩國橋を懸らる。新大橋ハ元祿六年、永代橋ハ同十二年ニ架る。

〔後見草上〕酉年明曆三年大火事に、諸人退場無之、差支數百人焼死申候ニ付、退場のため、横山町の道筋に、本所への橋一箇所被仰付、兩國橋と名附申候、

〔事蹟合考四〕兩國橋并御米藏之事

御入國後御城下東流荒川筋は、大橋一箇所もこれなき事なり、明曆大火後、万治二年はじめて大橋壹箇所かけられたるもの、今の兩國橋なり、延寶九年天和元年十二月廿四日、類焼したる時この橋焼落たり、元祿十一戊寅年九月六日、山下町より出火して三谷邊まで類焼したり、これ東叡山勅額御到著の日にして、彼額通り過る跡より出火略たり、○兩國橋は元の所に返しかけらるもの、今の兩國橋なり、

〔武江年表三〕天和元年、今年兩國橋御掛替あり、矢の倉南脇より、本所一ツ目の橋際へ渡る假橋を設く、今爰を元兩國といふ、十五年の後、元祿九年に今の所へ經營あり、

〔元祿珍話〕元祿元年九月廿四日、今度出來候兩國橋、明後廿六日より往還可仕之事、
一只今迄有之候假橋、明後廿六日より往還無用之事、

九月廿四日

兩國橋、寛文元丑年迄ニ初而出來、天和元酉年、右之橋掛直御普請ニ付、谷御藏脇より本所、豎川入口、江假橋相掛候處、御普請御材木出來申候ニ付、御普請相止、右假橋ニ而當年迄十六年致往來候處、當三月より元場所、江御普請御取掛り、橋出來當月より、往來有之、右假橋は御取拂ニ相成候、